
月刊
FALCOM MAGAZINE
Vol.11
月末の金曜のお約束!?
みんな集まれ!
ファルコム学園
動き出す結社の中で
レーヴェは……
空の軌跡外伝
レーヴェ物語
『碧の軌跡』序盤のティオの様子が明らかに!
英雄伝説 零の軌跡
ショートストーリーズ
碧の軌跡 情報課通信
英雄伝説 空の軌跡
THE ANIMATION
遊撃士協会アニメ支部
ティオのファルコムラジオ
めんどくさいです…
でもがんばります
の舞台裏
熱く盛りあがった
クリスマスライブの
様子を写真満載でお届け
ファルコムjdkバンド
2011X'masライブ
インタビュー&
フォトレポート




# FALCOM MAGAZINE

## CONTENTS

## ファルコムjdk バンド　2011X'masライブ

# インタビュー&フォトレポート

**2011年12月10日、神奈川の横浜ベイボールにて、『Falcom jdk BAND 2011 X'mas Live in YOKOHAMA BAY HALL』が開催された。ファルコムjdkバンド再結成以降、最多のボーカル、インスト曲が披露され、冬の寒さにも負けない熱いライブとなった。今回はそんな熱いライブを、jdkバンドメンバーのインタビューとライブ写真で振り返ってみたぞ！**




**SET LIST**

1. The Azure Arbitrator
2. ぐるぐるTonight
3. 俺たちのレジェンド
4. 銀の意志 金の翼 ～THE ANIMATION EDIT～
5. きよしこの夜&I swear...
6. 琥珀の愛
7. 星の在り処
8. Endless History
9. To make the End Of the Battle
10. OVER DRIVE
11. INNOCENT PRIMEVAL BREAKER
12. MIGHTY OBSTACLE ～The Wind of Zemeth
13. Maybe it was fated
14. 碧い軌跡
15. Cry for me, cry for you
16. RELEASE OF THE FAR WEST OCEAN ～I'm here for you

アンコール
Overdosing Heavenly Bliss&ストッパー&Inevitable Struggle
銀の意志 金の翼









**――ライブを終えた今の気持ちをお聞かせ下さい。**

**上倉紀行（key）**：今回はじめてショルダーキーボードを使わせていただいたんですけど、周りのお客さんの熱がより伝わってくる感じで、さらに盛り上がっていただけて楽しかったです。

> **このメンバーでの「jdkバンド」っていうものが掴めつつあるんじゃないかと思いました。（岡島）**

**岡島俊治（ds）**：今日のライブは自分は2回目の参加になるんですけど、このメンバーでの「jdkバンド」っていうものが掴めつつあるんじゃないかと思いました。そういう意味でも次回はさらに良いライブができるような気がするので、楽しみしていただければなと思います。

**寺前甲（g）**：今日はどうもありがとうございました。なかなか時間も取れないなかリハーサルもサクッとした感じでしたけど、非常に良いライブができたんじゃないかなと思います。ありがとうございました。

**水谷美月（vln）**：どうもありがとうございました。いつも終わる時「やりきった！」という充実感と疲労感がいい感じになるんですが、今日はまだ何かあるような気がするんです。二部制だったからかな？　だから次回はもっともっと良いライブをお届けできたらい





いな、と思っています。ありがとうございました。

**イカルス渡辺（vo）**：お疲れ様でした！　今回は曲数も一番多くて、僕が歌うパートも多かったのでとても楽しかったです。『星の在り処』がCDになって初めてのライブだったので、力も入りました。小寺は泣くしね！　この路線で行こうかなと思っちゃった（笑）。これからもがんばりますので、是非ともよろしくお願いします。楽しかったです！　ありがとうございました！

**小寺可南子（vo）**：いろいろ感激でした。ナベさんが言ってた通り、私泣いちゃいまして。『琥珀の愛』を自分でこの曲は年末に歌いたいと思っていたのですごく楽しかったです。私の歌う『琥珀の愛』からナベさんが歌う『星の在り処』の流れで、ヨシュアとエステルの気持ちのかけあいみたいなのが、自分でグッときちゃって泣

**KOTERA** Kanako

**ボーカル　小寺可南子**



**ICARUS** Watanabe

**ボーカル　イカルス渡辺**

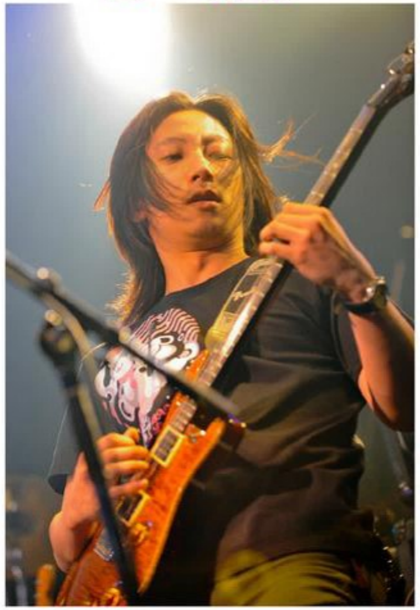


いちゃって。『琥珀の愛』はヨシュアがエステルを思った曲だろうと、それで『星の在り処』はエステルがヨシュアのことを思っている心情を歌った曲じゃないかと。それでお互いの思い方は違うんだけど、愛がある感じに涙したんです。自分がヨシュアになりきって「エステル、僕は愛のためにさよならするんだよ」っていう気持ちで、続いてナベさんが「でもヨシュア、私は追いかけるよ」って歌ってくれたので、私はヨシュアの気持ちになってたので余計泣けたんです。それが全部楽屋まで録られてその模様がビデオに収まってるのかと思うと怖いんですけど、でも楽しかったです！　いつもながら皆さま熱く迎えてくれましたし、とりあえずは年末の『小寺の在り処』（※“コミックマーケット81”の日本ファルコムブースで発売されるCD『ほしのありかざんまい』に収録）もありますの



**INOUE** Terukazu

**ギター　井上央一**



で。いつかこのメンバーで再現できたらなあと思ってるんですけど、そういう野望も持ちつつまた是非皆さんに会えたらなと思って胸を熱くしております。来年もよろしくお願いします！

**榎本敦（b）**：今日はありがとうございました。いつもより曲数も多くて時間的には長かったんですけども、全然そんなことを感じさせない感じでやってみれば一瞬で終わった感じでした。早かったなあ。ステージから見えるお客さんの表情がすごく印象的でした。また熱いライブにしたいですね！　ありがとうございました！

**井上央一（g）**：曲数が多いって今みんなが言ってる最中に思い出したんですけども、いつもと変わらない感じでやってました。たぶんそれはみんなテンションがひとつになって、お客さんに出せた結果だろうなと思っています。もっとレベルアップしてお客さんに提供できるようにしたいので、これからもよろしくお願いします。

**――今回のライブは久しぶりに演奏された曲目もあったりと、かなりボリュームのあるラインナップだったのですが、今回のセットリストの中で「これは特に盛り上がったな」というところがありましたらお聞かせ下さい。**

**イカルス**：僕は『Endless History』の時に、女性が歌うあのどっしりしたバラードを元々聴いてるイメージを崩さずにこれが僕ですっていうのを出して歌えたので、その「これが僕です」っていうのが意外と盛り上がったのでうれしかったですね。角生えてますけどね（笑）。今回とても貴重な体験をさせてもらえました。

**小寺**：私はインストの曲も結構好きでよく聴いているんですけど、今回アンコールの3曲で「そこをやってくれるのか！」と。ファンがよっしゃ！と思う選曲で、し

**ENOMOTO** Atsushi

**ベース　榎本敦**

















かもすごい良いまとめ方をしているメドレーだったので、これこそjdkやっぱりすごいなあと思いましたね。インストって大事だと思うので裏切らないなあと。あと個人的にはヴァイオリンの美月ちゃんとチューをしているにもかかわらず、あんまりそこが注目されていないことが判明しましてね。次のライブはこのガチ百合っぷりを是非！　メンバーですら気づいてないから！　映像も編集して残しておいてほしかったんですけども（笑）。まあ次回はそこも是非注目していただければね！

**——ニコファーレのライブに始まり、ゲームショウにライブがあって調布のライブイベントがあって、今回とあわせて1年間に4回というたくさんのライブがありました。コミックマーケットへの参加や「jdkTV」など、かなり濃い1年になったと思われます。来年に向けての抱負をお聞かせいただきたいと思います。**

**上倉：**自分自身昔からファルコムさんのファンでもあるので、最近の曲をやりつつ、昔の曲もやりたいですね。『ソーサリアン』とか『イース3』とか。今度イースのゲームがまたファルコムさんから出るみたいなので、それに合わせた曲をやってみたいな。新しいお客さんも前からのお客さんも、楽しんでいただけるようなものを作りたいなと思います。

**岡島：**8月のニコファーレから参加させてもらったんですけど、そこから日本ファルコムさんに関わらせていただくことがすごく多くなりまして。僕はファルコムのゲームで育っていきまして、ファルコムのゲームがあったからこそミュージシャンになってるし、そ

の熱い想いがあって、昔のゲームは詳しいんですけども今のゲームは実は知らないんです。まだやってないものもいっぱいありますし、お客さんから教えていただいている新しい知識と僕の持っている想いを織り交ぜて、また新しいものをお届けできたらいいなと思っています。来年はさらにｊｄｋバンドとしての面白さをもっと出せるような1年になればいいな、と思います。

「ｊｄｋＴＶ」のほうでも野望はつきないんですけど、ファルコムファンの方の中で「死ぬでないぞ」っていう言葉があるんです。それを実際に水谷さんをペンタウァにお連れするっていうイベントも考えております。

**小寺**：さっぱりわからん!!（笑）

**上倉**：そちらの武器屋にお会いしてですね、「さっさと決めな！」って言われてキュンとするのかというのをですね。

**OKAJIMA** TOSHIHARU
**ドラム　岡島俊治**



**TERAMAE** Masaru
**ギター　寺前甲**



**小寺**：もうここは、ふたり以外のメンバーはポカーンとしてますって書いといてください（笑）。

**岡島**：さっきもちょっと話したんですけど、新旧のファンの橋渡しというか、せっかく「ｊｄｋＴＶ」が公式になったので、公式の枠内でやれることがあったらやっていきたいですね。僕らはすごい昔からのマニアックなファンなので最近の作品はよくわかっていないんですけど、逆にコテカナは最近のほうで語ったりしているので、そういうところを新旧取り入れてやれたらいいなと思います。やっぱり30年の歴史がありますので、人ひとりの人生変えてると思うんですよね。そういう人がいっぱいいるっていうのがツイッターとかでわかって感動しました。それだけの歴史と昔からのファンの熱さ、それに加えて新しいファンの熱さも教えていただいてお伝えできればいいなと。

**KAMIKURA** Noriyuki
**キーボード　上倉紀行**



**上倉**：代々木の居酒屋（ファルコムショップ跡）でやるオフ会なんかもやっていきたいなと思っています（笑）。

**小寺**：私も『イースvs空の軌跡』結構やりこんだよ！　エステルでやりこんでるよ！

**岡島**：トーナメントとか、対戦やる？

**小寺**：だから『イース』グループとウチら『空の軌跡』グループでやろうよ、対戦！

**上倉**：ファルコムさんからＯＫが出たらね！　こうやっていろいろライブに絡めてメディアミックスできたらいいですね。

**寺前**：ここ最近は東京向けのライブが多いので、もうちょっといろんなところでやっていけたらいいなと思っています。大阪では何回かやったことがあるんですが、名古屋やほかのところでのライブもドンドンと！

**水谷**：日本と言わず外国にも行ってみたいです。なんちゃって（笑）。来年はもっとコーラスが上手になりたいです。インストはインストで回を重ねるごとにみんなと同じ方向に向いていくのがすごく気持ちよかったんですけども、コーラスが私はまだまだ未熟でふたりの素晴らしいシーンの足を引っ張るのではないかと。なので来年はコーラスをちゃんと歌いたいと思います！

**イカルス**：ライブが一番盛り上がるし、お客さんを近くに感じられるので、もっと大きなところでライブをやりたいなと思います。あと『ほしのありかざんまい』ＣＤが年末に出るわけですが。そういう「ざんまい」的にいろんなアレンジの曲が入ってるＣＤがあれば、もっといろんな世界が広がるんじゃないかなと思います。よろしくお願いします！　がんばります！

**小寺**：まずは来年もライブをガン

**MIZUTANI** Mizuki
**バイオリン　水谷美月**










ガンやりたいですね。我々はライブ回数が少ないバンドなので、4回が多いと言わずに倍以上できればいいなと思います。あとはやってみたい名曲も多いので、もっとメンバーがやりたい曲とか、お客さんが聴きたい曲のセットリストを組んでみたりもしたいなー、と。

## 4回が多いと言わずに倍以上できればいいなと思います。（小寺）

今年は東京で4回できましたので、来年は是非いろんな場所にいけるようにがんばりたいと思います。今年来れなかった皆さんも期待して待っててください。がんばります！

**榎本：**来年はもっとライブを定期的にやれたらいいなというのはありますけども、その中でいろいろ変化をつけたりとか、いつもやってる感じの中で部分部分で驚きを出していったりしたらもっと面白いライブになるんじゃないかなと思います。それが形になればいいなと。来年はファルコムさんのゲームをやります！（笑）

**井上：**みんなが言うように回数をもっと増やしたいですね。忙しいとは思うんですけど、回数を増やして、増やすほどレベルアップしていけばすごい高いレベルでお客さんにお届けできると思うんです。そうやって数を増やして極めていけたらなと思います。

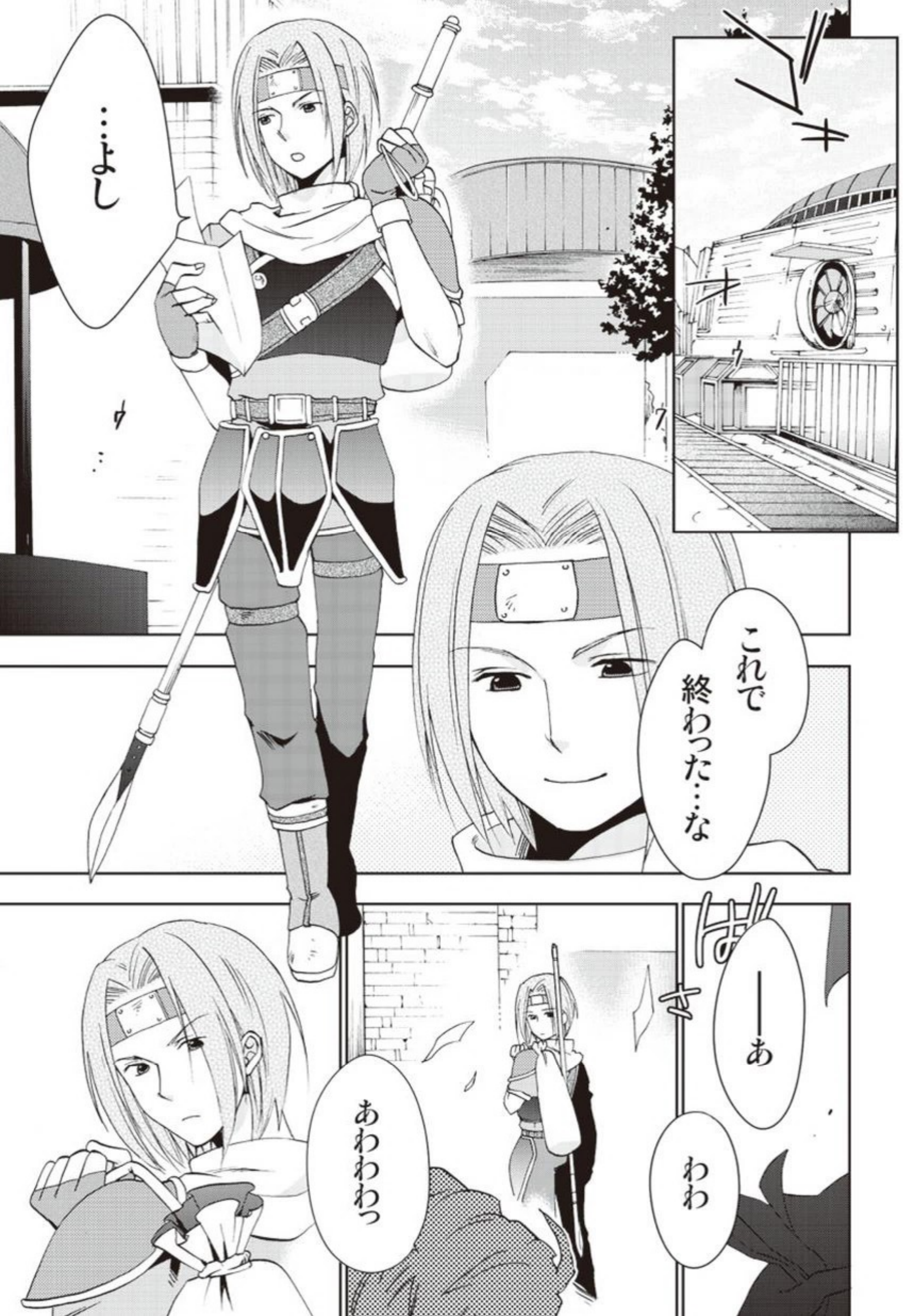


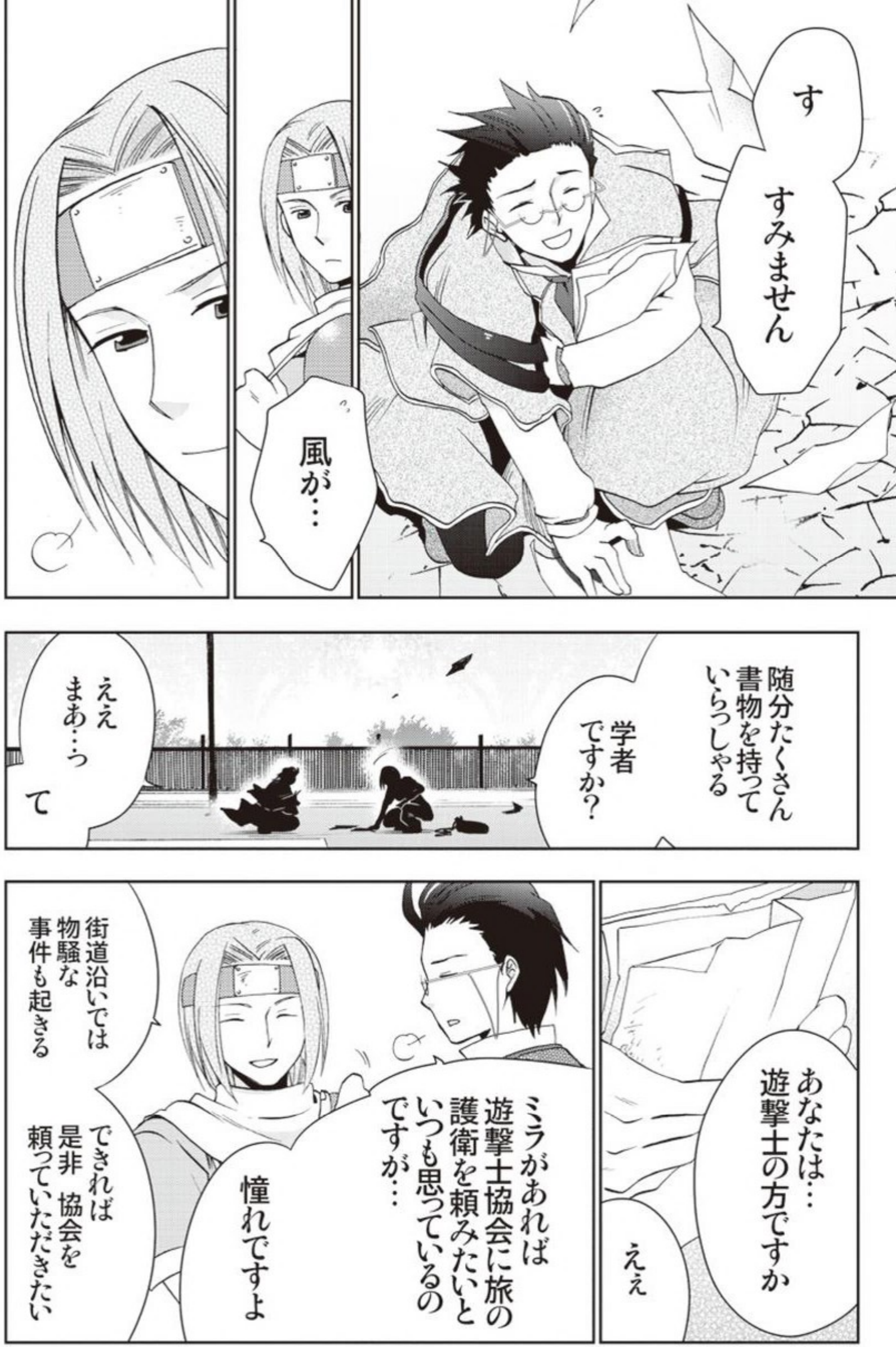



なっ…
ゴスペルを何者かに奪われたですって!?
――申し訳ありません
グランセル港にて厳重に管理していたのですが…
…!!
――なんて情けないこと
やっと手に入れたというのに!
……


――それにしても一体誰が…
遊撃士…だな?
ロランス君
……はい
容姿・実力などの情報からある男が――!…
ある遊撃士が対象に挙がっており
現在 調査を進めています
そうか
……帝国に向かっているはずだというのに
あの人の仕事ぶりは相変わらずだな


すでに協会に根回しし 監視員を張り巡らせていたとは…
……
トン トン
…こちらも相応の手を打つ必要があるな
君は引き続きゴスペルの奪還作戦を仕切ってくれ
任せたぞ
はっ
かしこまりました


…よし
これで終わった…な
はッ
——あ
わわ
あわわわわっ


す
すみません
風が…
随分たくさん書物を持っていらっしゃる
学者ですか?
ええまあ…っ
て
あなたは…遊撃士の方ですか
ええ
ミラがあれば遊撃士協会に旅の護衛を頼みたいといつも思っているのですが…
憧れですよ
街道沿いでは物騒な事件も起きる
できれば是非 協会を頼っていただきたい


——物騒といえば
昨晩 遊歩道から宿に帰る時に黒装束の人たちを見かけたんですよ…
奇妙な光景だったなぁ…
…学者殿
はい?
よろしければその話を協会の方で詳しく聞かせてもらえないだろうか
いいですよ
よかった…ご足労をおかけする
——そうだ
失礼だが学者殿
名前はなんと?


はい
アルバと申します
コッ…
——では
質問を始める


お前の名は
クルツ・ナルダン
間違いないな
……
ああ
よし
遊撃士協会
王都支部所属
B級遊撃士
これも間違いはないな
ああ
……
では
これを見たことは?
スッ

…
ある…
私は
この黒の
オーブメントを
見たことが…
ある…
そうだ
お前は
このオーブメントを
つい先日
ある物達から
奪取した
ああ
その時の状況を
詳しく
わかった…
…私は…
ある人物に
依頼された
その人物から渡された
情報をもとに…
黒装束の男達を
追跡していた…
あれは…
深夜といっていい
月明かりの
少ない夜だった


グランセル港に彼らが集まっているのを確認した私は
そこを襲撃し…
その…黒のオーブメントを奪った…
──ではこれで最後だ
クルツ・ナルダン
お前に黒のオーブメントを奪うよう依頼した「ある人物」とは…
カシウス・ブライト
──だな？
…ああ
違いない
カシウスさんの依頼で私は彼らを追いオーブメントを奪取した
そのオーブメントは…小包として…私が配送の手続きを行った…

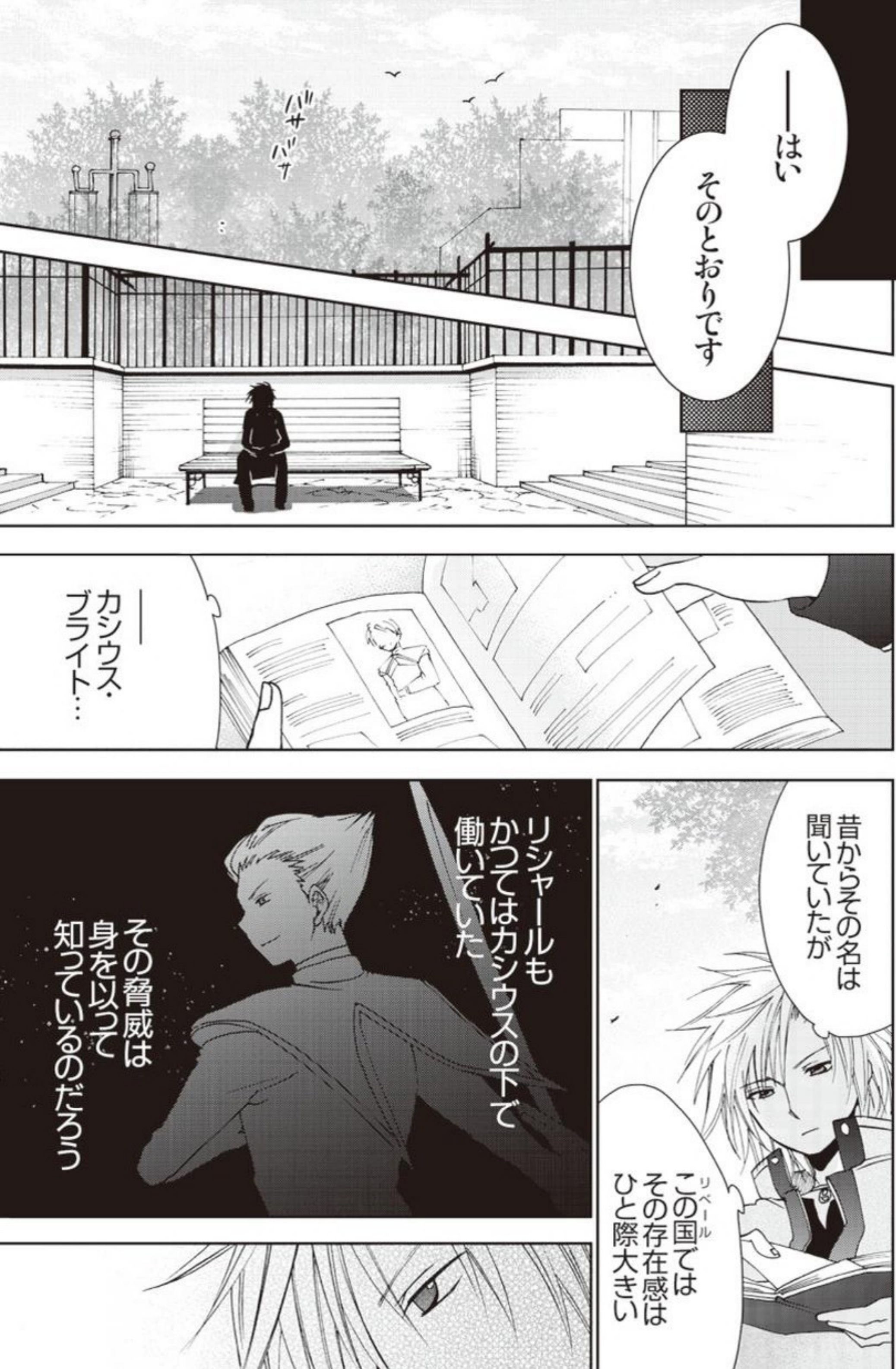

あの漆黒の
オーブメントは
近日中にカシウスさんの元へ届くだろう――…
……
フン
ス
…
これで確認できただろう？
カシウス・ブライトは遊撃士を介しこちらの行動を阻もうとしている
また 特務兵に目を付けているあたりお前のこともだいぶ調べがついてきている…
…そして
ヨシュアがもたらした……この情報もまた
正確だった…というこことだ
あの時ヨシュアを送り込んでいたのがこうして活きてくるわけだ
かつて誰だかは反対していたがね
――それで ゴスペルの方はどうするつもりだ
どうもせんよ


その男の証言通りいずれカシウスの手に渡るならば
我々の手中にあるも同じこと
それに今はカンパネルラが猟兵団と共にカシウスを足止めしているしな
……
つまり…
貴様はカシウスの動向を把握していながらも
こうして出し抜かれたわけだな


――さすが「剣聖」といったところだな
カシウス・ブライト
しかし今回の件はきわめて軽微な誤差


「計画」にはさほど
支障あるまいよ
……
――というわけでゴスペルの行方は現在調査中です
奪還を計ると同時に多方面にゆさぶりをかけていくのがいいかと…
そうだな
――大佐
この件にはかの英雄カシウス・ブライトが関わっています
壁としては少々…存在が大きすぎるのでは…?
――そうだな


カシウスさんはあまりに大きな存在だ
この国にとっても…私にとっても
……
ーしかし
「英雄」といえども
我々を阻むのなら対峙するのみだ
正義は我らにある
そうだろうロランス君


ーはい
そのとおりです
バサバサ
ーカシウス・ブライト…
昔からその名は聞いていたが
この国(リベール)ではその存在感はひと際大きい
リシャールもかつてはカシウスの下で働いていた
その脅威は身を以って知っているのだろう


ヨシュア…
あの男(カシウス)の元に送り込まれてもう5年…
遊撃士になったと聞くが――…
レーヴェ!
おまたせ
じゃあね パパ ママ
あとでね


すとん
しばらくだな レン
また少し大きくなったんじゃないか
ええ そうよ
レンは育ち盛りのレディなんですもの
はは
今のレンを見たらきっと
ヨシュアはビックリするわね
今 ヨシュアはロレントって田舎町にいるんですって
レン 会いにいってみようかしら
…レン どこでそれを?
うふふ


カンパネルラに聞いたのよ
もしかしたらもうすぐヨシュアが帰ってくるかもしれないんですって
レン楽しみだわぁ
……
…ヨシュア…
結社に戻ってくれればお前はワイスマンの操り人形として
以前のように暗殺者として生き続けるだろう…
…そして
結社に戻ってこない道があるとすれば
結社と手を切りカシウスの元で…遊撃士として生きる…


できることならヨシュアが
このまま遊撃士として生きる道を選んでくれればいい
しかしそれは即ち
俺はいずれ結社の人間として
あいつの前に立ちはだかることを意味する……
……俺はどちらを望んでいる?
ヨシュア




**10月から好評配信中のWEBラジオ『ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります』の舞台裏をこっそりお届け♪**

**ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります**
**■配信日** 毎週金曜日、公式HP、ランティスラジオ、ニコニコ動画にて更新。
**■メインパーソナリティ** 水橋かおり（『碧の軌跡』ティオ・プラトー役） 小寺可南子（『ファルコムjdkバンド』ボーカル）
**■公式ホームページ** http://www.falcom-radio.com/

## 第９回-第10回

**大川透**（『碧の軌跡』ロバーツ主任役）
**三浦祥朗**（『空の軌跡』ブルブラン役）

第９回、10回は初のダブル男性ゲストとなる大川透さんと三浦祥朗さんが登場。大川さん演じるロバーツ主任は、水橋さん演じるティオの直属の上司という役柄。そして、三浦さん演じるブルブランは、『空』だけではなく『零』、『碧』にも登場するシリーズ屈指の「濃い」キャラだけに、どちらのコーナーも熱いトークが展開された。ラジオドラマでは、オリビエが大暴走。「黄金のリュート」ネタに爆笑した人も多いはず。また、視聴者参加型のドラマCD企画もこの回から始動した。

### ▶第９回-第10回の舞台裏◀

ゲーム本編ではく、ドラマCDでしか出演していなかった大川さんだったが、いざ収録が始まると、バッチリとロバーツ主任になっていたのは流石のひと言。そして、収録前からブルブランはもちろんのこと、リシャール大佐にも気にかける三浦さんの、『軌跡』シリーズへの愛を感じた。

## 第11回-第12回

**金子英彦**（『零の軌跡』ヨアヒム・ギュンター役）
**今野宏美**（『空の軌跡』ティータ・ラッセル役）

第11回、12回のゲストはヨアヒム役の金子英彦さんとティータ役の今野宏美さん。金子さんはヨアヒムという役柄上、難しい立ち位置ながらも、『空』で演じた一部のファンの間で大人気のキャラ・クルツの話題も交え、見事に番組を盛り上げた。水橋さん、小寺さんも大好きなティータを演じる今野さんは、第11回の質問コーナーでアガットに「婿養子」に来てと大胆発言。アガット役の近藤孝行さんがゲストだった第3-4回と同様に、アガットの外堀がどんどんと埋められていく姿が印象的だった。

### ▶第11回-第12回の舞台裏◀

アガットの「○○○○ダイブ」と同様、ファンの中で生まれたクルツのボートネタ。スタッフが自重した中、収録で金子さん自らが披露しスタジオは大盛り上がり。自身もティータが大好きだという今野さんが、『零』『碧』のことを水橋さんに教わり、次回作に「ティータは出るんですよね!?」とスタッフに詰め寄るひと幕も。







### 今月のコテガキ

毎週更新とともに発表される、小寺さん直筆の「コテガキ」を少しだけご紹介！









# みんな集まれ！ファルコム学園

新久保だいすけ

## 食事会




## お客様




## まちがいさがし



## はじめての評価




## 私が作りました




## アガットの本性

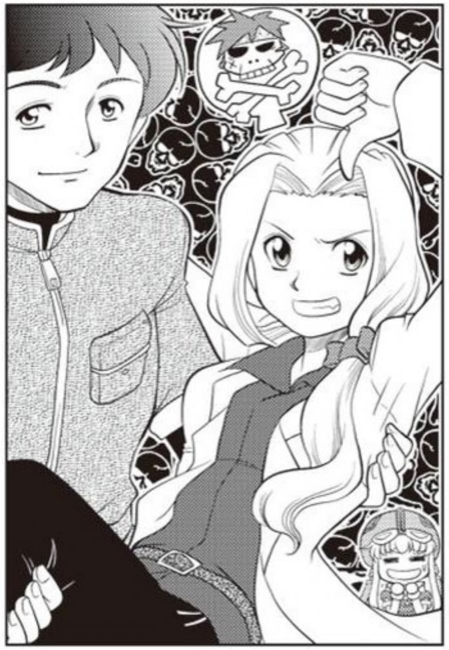



## 二人のなれそめ

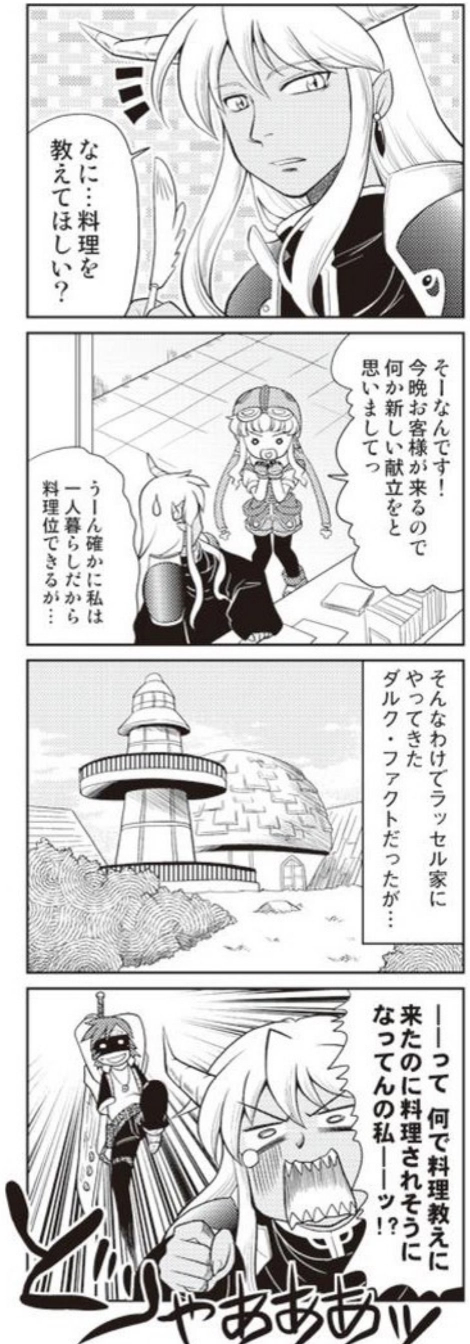


# みんな集まれ！ファルコム学園 今月は二本立て！

新久保だいすけ



## 前回のあらすじ




## ダンナの立場




## 新型



## お気楽デスマッチ




※イースVS空の軌跡のこと

## 試作品




## 試作品パート２




## 遺言



# 小説版 零の軌跡 ショートストーリーズ

## ティオの章（前編）

田沢 大典
Illustration 松竜

なんでこんなことになってるんだよ。

ヨナ・セイクリッドは思わずそうつぶやいていた。

ここはエプスタイン財団の研究所にある、導力ネットワークのサーバー管理室である。綺麗に整頓された室内には、少し低めのテーブルの上に最新鋭の端末が並んでいる。その価値を知るものならば速攻で卒倒しかねないほどのお金と設備だ。ここで、研究所の中にある導力ネットワークを管理している。

ネットワーク研究者にとっては天国のような場所なのだが、ヨナにとってはここは牢屋と変わりがなかった。

「なんでこんなことになってんだよ……」

まったく同じセリフを再度つぶやき、ため息をつく。うなだれたヨナを、近くの席にいた研究者が見ていた。盛大にサボっているヨナの姿に一瞬眉根を寄せたが、そのまま無視して自分の仕事に戻っていった。

そもそも、なんでこうなったんだっけ？

ヨナはそう思い、記憶の糸をたぐり寄せはじめた。

クロスベルを襲った大事件『D∴G教団事件』。その解決後、ティオの所属するクロスベル警察特務支援課は一時解散となった。この期にティオは、魔導杖（オーバルスタッフ）の性能報告をしようと、エプスタイン財団のロバーツ主任に、財団研究所への一時帰還を申し出る。

ここまではヨナにとっては関係のない話だったが、その話の流れでティオが、

「ヨナも連行しましょう」





と、思いついてしまった。

事件のどさくさにまぎれ、ＩＢＣ社のラボにもバックドアプログラムをしかけて楽しく遊んでいたヨナだったが、ティオがジオフロント内にあったヨナの隠れ家に突撃。同意しない場合は隠れ家の場所を警察へ通報すると言い、嫌がる彼を強引に連れ出し、財団研究所へ同行させた。

こうしてティオ、ヨナ、ロバーツの3人はクロスベルを出発し、レマン自治州にある財団研究所へと戻ってきた。ティオは本来の目的である魔導杖の性能報告作業に、ロバーツは主任なので主任業務に戻った。ヨナはというと、いったんは財団を脱走した立場であり、そもそも居場所がない。そこで上層部は、彼を行き詰まってる難題プロジェクトに参加させることにした。ヨナ自身もプロジェクトの難しさを聞き、逆にやる気をかき立てられ、熱心に仕事に打ち込んだ。

ヨナは天才的な頭脳を持ち、閃きでプログラムを作成するタイプだ。彼にかかれば、行き詰ったプロジェクトが抱える難題も、『なんでこんな簡単なことが気づかないんだ？』と思えるほどたやすいことだった。彼は瞬時に脳内で新しいプログラムの骨子を組みあげてしまった。その点で、彼はまさに《天才》だった。

しかし、ここで別の問題が発生した。ヨナはプログラムを閃きで作ってしまうが故に、論理的に、かつチームで作っていく研究所の方法とは相性が悪かった。ヨナは脳内で組み上げたプログラムを、口頭で説明してすぐさま作成に取り掛かろうとした。しかし、他の研究員はヨナほどの天才ではない。みな、導力ネットワークの専門家であったし、秀才と呼ばれるような人材ではあった。だが、ヨナほどの《天才》ではなかった。ヨナの口頭の説明だけでは、プログラムの全容を把握しきれなかったのだ。

とはいえ、彼らも遊びでエプスタイン財団に勤めているわけではないし、秀才と呼ばれてきたプライドもある。そこで、自分たちが理解するための時間を稼ぐため、ヨナに仕様書を作ってはどうか、と提案してきた。

しかしヨナにとっては、脳内で一度組み上げたプログラムである。それを仕様書などという形に起こすこと自体に意味を感じなかった。仕様書にする時間があるぐらいなら、最初から組み上げてしまえばいい。できたプログラムに不満があるなら、瞬時に修正すればいい。実際彼はそれができるのだ。

ヨナはそのことを正直に言った。しかも彼ならではの口調で、思っていることをまったくオブラートにくるむことなく。『仕様書は時間のムダ』『ボクひとりで十分』『あんたらは好きなことしてればいい』『修正もひとりでやれる』『いいからとっととプログラム組んじゃおうぜ』

ヨナのこの言動は、他の研究員たちのプライドを大いに傷

つけ、彼は大変な反感を買うことになってしまった。

こうして、諸手を挙げて歓迎された天才プログラマは、今やプロジェクトチームの中で好き勝手をする問題児、という扱いになっていて、ヨナも急速にやる気を失っていった。

そうなってしまうと、この仕事は『退屈』だった。常に刺激を求め、導力ネットの海をさまよっていたヨナにとって、『退屈』はなによりも恐ろしく、また忌み嫌っていたものだった。

だから今日も彼はつぶやいていた。

「あー、ダリィ」

今日何回目かの愚痴をこぼし、ヨナはイスにもたれかかり、天井を見上げた。

そんな様子を、廊下側にある窓から見ていたのは、ティオである。

「ヨナ、大人しく仕事をしていますね」

そう言ってから、最後につけ加えた。

「……今のところは」

放っておくと、いつまた逃げ出すとも限らない。そうティオは考えていた。とはいえ、今の彼女にとって大事なことは、ヨナのことではない。自分が抱えている仕事のことに頭を切り換えつつ、廊下を歩き出した。

今日のティオは、普段のダークブルーをベースとした服の上に、白衣を羽織っている。以前から研究員は白衣着用がある程度推奨されていたが、ティオにあうサイズがなかったため、彼女は着てこなかった。

それがこの度、晴れてティオにあうサイズ――というより、彼女専用のサイズ――が支給されることとなったのだ。ちなみに、手配を進めたのはロバーツ主任であり、はじめて着たときに満面の笑みを浮かべていた。その場でティオは白衣を脱ぎ捨てようとしたが、ロバーツの懇願により押しとどまったのだ。

実際着だすと、服の汚れなどを気にする必要もなく、ポケットも多いので便利だということに気づき、白衣を着ることへの抵抗感はなくなっていった。

研究所を白衣をはためかせて歩くティオ。彼女が向かった先は、研究所内の共用スペースである。建物の中だが、ガラス張りの壁面と高めの天井で開放感があり、外に植えられた緑が目に鮮やかだ。スペースにはイスとテーブルがそなえつけられ、少し離れたところには自由に飲めるお茶のセットなどもある。昼食時ともなると、ここにパンやお弁当を持ち込んで食事をする研究者が多くいる。

今は午前中なので人影もまばらだ。ひとり静かに考え事をするのには持ってこいの時間である。







ティオはイスに腰掛け、持ってきたレポート用紙を広げ、ペンを握った。レポート用紙の一番上に、ペンを走らせる。
『魔導杖の実戦運用における問題点と対処法について』
年相応のやや丸みを帯びたかわいらしい字だが、書いている内容はそれと反して硬い。そして、次の行にペン先は向かった。
『サブウェポンとしての魔導杖の可能性』
ここまで一気に書いて、ティオはレポート用紙を見つめた。とんとん、とレポート用紙をペン先でつつき、サラサラとメモをする。
『パターンで考える』
『テストケースで具体的に』
『ロイドさん、エリィさん、ランディさん』
思いついたことをメモし、ペンを走らせていた手を止めて眺める。いけそう、と小さくつぶやいた。
ティオの今の仕事は魔導杖の運用試験の結果を報告することである。とはいえ、具体的な数字は、ロバーツの手を経由して、すでに魔導杖開発チームには渡っていた。今すべきことは、もっと大ざっぱな話、いわばグランドデザインのところだ。
ティオは魔導杖一本で魔獣などと戦ってきた。特務支援課で積んできた経験からいうと、この方法には可能性と同時に限界を感じていた。魔導杖は確かに詠唱を必要としない点が魔法（アーツ）と異なり、また通常の剣や銃などと同じ、タイムラグなく隙が少ない攻撃を可能にしている。
とはいえ、大きな括りでいえば、ただの武器である。あらゆる武器には長所と短所があり、また得意とする人と不得手とする人がいる。それを明らかにすることで、魔導杖の新たな開発の方向性を見いだせないか、と考えていたのだ。
ティオは考えながら、メモを続けた。新たな開発の方向性、のところを四角く線で囲んで強調する。
ちなみに、ティオは導力ネットワーク端末を使って文書を作ることは可能である。むしろそちらの方がキーを叩くだけでいいので楽ではある。だが、こういう風に考えをまとめる際には、紙とペンを使った方が効率的であると、ロイドに教わったのだ。いろいろな要素を検討し、つなぎ合わせ、まとめていく作業においては、紙とペンがもっとも効率的である、とロイドは語っていた。彼が事件の際、ホワイトボードに関係者の相関図などを分かりやすくまとめていくのを見ていたので、その言葉には説得力を感じていた。
「……では、はじめましょう」
そうつぶやいて、まずティオはランディのことを想像してみた。ランディなら魔導杖を使って、どのように戦うか、と考えていく。





ティオの想像の中のランディを、魔獣と対峙させる。ランディは魔導杖を持ってしげしげとそれを眺めていたが、すぐに魔獣と距離を取った。魔導杖は中距離での攻撃を得意とする武器なので、セオリー通りである。戦闘のプロであるランディらしい判断だった。
だが、何発か魔導杖で攻撃するものの、有効打を与えるに至らない。しかも、魔獣の攻撃を杖で受けることになってしまい、ランディは戸惑いを隠せないようだった。
すると、杖を捨てて、素手による格闘戦スタイルに持ち込んでしまった。あふれる腕力を使い、魔獣を素手で倒したランディを見てティオは
「……ダメですね」
はあ、とため息をつく。そもそも格闘戦を得意とするランディは、もっとも魔導杖と相性が悪いのだ。とはいえ、この思考実験がまったく無駄だったわけではない。
ティオはレポート用紙にペンを走らせた。
『魔導杖自体の強度強化』
『実戦では不意打ちに対応するために組み合うことも』
実際、ティオ自身も敵との遭遇時、不意を打たれて魔導杖で攻撃を受け流したことが何度かある。その度に、壊れはしないかと冷や汗をかいた。魔導杖自体が丈夫になれば、このような状況にも多少は対応できるはずだ。
「いけそうです……」
自分の方法論に手応えを感じ、つぶやくティオ。今度はエリィが魔導杖を持った姿を想像する。魔導杖を手にしたエリィの姿は、銃を持っている時よりお嬢様っぽく見えるな、などとティオは考えた。それに、以前絵本で見た魔女のようだ、とも。そのままとんがり帽子にローブを羽織ったエリィの姿を想像する。想像の中のエリィはノリノリで、持っていた魔導杖をくるくるとステッキのように振り回し、ポーズを取った。
「……くっ」
ティオはひとりで肩を揺らして笑ってしまう。いけない、今は仕事の最中、と思い直し、魔女の格好からエリィの普段着に姿を戻す。
魔獣と対峙したエリィは、杖を振るい攻撃をしかける。杖のひと振りで放射状にアーツによる攻撃が広がると、驚きの表情を見せた。
エリィが普段使う導力銃は、単体のターゲットをピンポイントに狙うものである。対して魔導杖の攻撃は、放射状に広がる、いわば面攻撃である。
さらに、攻撃後、敵の反撃をかわすために取った間合いも、魔導杖の射程から外れてしまうものだった。導力銃に比べて、魔導杖の射程は短い。次の攻撃時に、射程が足りずに再度間

合いをつめるという無駄な動きを取ってしまうエリィ。
　そこで想像を止めて、ティオはペンを走らせた。
『点攻撃と面攻撃、その特性の違いを持ち手にレクチャーする必要あり』
　エリィの普段の戦い方は、導力銃による遠距離攻撃と、アーツによる攻撃および援護、というものだ。銃というものの特徴を存分に生かした方法だが、現状の魔導杖とは異なる。魔導杖が導入される場合には、選択肢として導力銃と並べられるだろう。その際、それぞれの特徴を理解して選んでもらう方がいい。
　ここまで一気に書き上げ、ティオは一度ペンを置いた。そのままイスから立ち上がり、お茶のセットが置いてあるところでお水をカップに汲み、戻ってきてテーブルに置いた。
　再度イスに腰掛け、水を口に含む。冷やされた水が、身体に心地よい。気分を一新したティオは、さっきの作業の続きに取りかかった。
　最後はロイドである。しかしティオは、魔導杖を持っているロイドがあまり想像がつかなかった。とりあえず、彼女の想像の中にあるロイドを引っ張り出してくる。
『ティオ』
　いつもの服を着た、いつものロイドだ。
『元気でやってるか？　風邪とかひいてない？』
　自分の頭の中で想像したロイドもひどく心配性なので、思わずティオは苦笑してしまう。
　大丈夫です、主任もヨナも、元気でやっています。
　そう返答すると、ロイドはよかった、と言ってはにかんだ笑顔を見せた。その笑顔を思い出し、そういえば、顔を合わせなくなってまだ一ヶ月も経っていないけれど、随分と長いこと会っていないような感覚だな、と気づく。
『仕方ないさ。特務課ができてから俺たち、ずっと一緒だったから』
　ずっと、一緒。
　その言葉に、少しティオの胸が熱くなる。研究所で魔導杖の開発をしていたころは、誰かと一緒だという感覚はほとんどなかった。研究員は仕事上だけのつきあいだったし、ロバーツはティオのことを気遣って――というより、嫌われることを恐れて――あまりベタベタはしてこなかった。幼い頃、悲しい事件に巻き込まれたティオにとって、特務支援課での日々は、ほぼはじめてに近い『他者と過ごす時間』だったのだ。
『ティオはどう？　寂しくない？』
　寂しい……？
　考えたこともなかった。今まで他人と濃密な時間を過ごすことがなかったティオにとって、『寂しい』という感覚はあまり意識してこなかったからだ。そのまま、自分の心に問い



かける。
　……寂しい、です。会えないのが。
『えっ？』
　驚くロイドに向かって、ティオは答えた。
　キーア分が、とっても不足しています。
『あははっ！』
　想像の中のロイドが破顔一笑する。その笑顔につられて微笑んだその時。
「プラトーさん？」
　いきなり外界からの刺激を受けて、ずっと内に向いていたティオの意識が急激に外に向く。ほんのわずかのタイムラグを置いて外界を認識すると、自分の目の前に何度か見かけた顔があった。
「ああ、よかった」
　そう言ってその青年ははにかむ。他の研究員と同じように白衣を着ているが、その下に着ているシャツは帝国の一流ブランドのものだ。スラリとした身で見事に着こなしている。
　顔立ちも整っている。ブロンドとブラウンの間、といった色合いの髪の毛は短めにまとめられ、整髪料によってラフにまとめられている。マスクは甘く、女性にもてそうな顔だな、とティオは自分のことを差し置いて考えていた。
「あの……何かご用でしょうか？　エメルトさん」
　ティオが記憶のふちから名前を引っ張り出して問いかける。彼の名前はマルセル・エメルト。帝国出身で、ティオが戻ってくる数ヶ月前からこの研究所に入った若手研究者だ。
「いえ、なんだかひとりで座って……」
　そこまで言って、マルセルは楽しそうに微笑んだ。
「しばらく難しい顔をしているかと思ったら、肩を揺らせて笑ったり、切なそうな顔をしたり、急に微笑んだり。いったい何をしているのかな、と思いまして」
　想像の中でロイドたちと話していた時に、いろいろ顔に出ていたらしい。ティオは恥ずかしくなったが、それ以上に黙って見ている相手の趣味の悪さにイラッと来た。
「……いつから見ていたんですか？」
「ついさっき」
　嘘だ。この笑顔はかなり前から見ていたに違いない。ティオはいつものジト目で、マルセルをにらみつける。
「……少し、考え事をしていただけです」
「ああ、いやいや。気分を害されたのなら謝ります。あなたのされている研究は、弊社にとってもとても大事なものなのですからね」
　わざとらしく謝るが、そこに誠意の一切を感じず、ティオはまたもイラッとしていた。
　彼の言う『弊社』とは、ラインフォルト社のことである。

ラインフォルト社は財団に多額の資金援助を行い、この研究所に研究室を開設した。そこでは、セプチウムを使った魔導関連の新規アイテムの開発が行われている。マルセルは、若くしてこの研究室の室長を務めていた。

「新しい魔導杖のあるべき形……魔導杖のスペシャリストであるプラトーさんと開発できるとは、光栄です。ともに協力しあい、次世代の魔導杖開発を成功させましょう」

マルセルの研究室が作ろうとしているのは、ティオの持つ魔導杖、その量産型ともいうべきものだった。精巧なパーツを使い、卓越した術者によって運用される現状の魔導杖は確かに強力な武器ではあるが、運用が難しすぎる嫌いがある。

そこで、もっと量産ができ、安価で、容易に扱える。そんな魔導杖を作りたいとラインフォルト社は考えた。

ティオははじめてこの話を聞いた時に、

「いかにも武器屋さんが考えそうなことです」

とひと言で切って捨てた。

戦闘のスペシャリストであるランディとの雑談の中で、兵器というものはどう生まれ、どう普遍化され、そしてどう災禍をまき散らしたのか、という話を聞いていたからだ。ランディの言を借りるならば、魔導杖はテスト段階が終わり、実用段階に入ったことになる。これからはより多くの人が魔導杖を持つことになるだろう。

ティオのように体格に恵まれず、体術なども会得していない者がそれでも武器を持たなくてはいけない時、魔導杖は導力銃などと並ぶ『力』となるだろう。それによって救われる命もあるはずだ。

だが、同時に大量生産されれば、それは戦争の道具ともなり得る。それもまた、導力銃と同じだ。特にラインフォルト社は、導力銃をはじめ、さまざまな種類の武器を作っている会社だ。その多くが、帝国軍に納品されている。そこが目をつけたということは、魔導杖を本格的に軍の中で運用するつもりなのだろう。正直、あまり気分のいいものではない。

とはいえ、ティオは子どものように次世代魔導杖の開発を拒否することはしなかった。そんなことをしても、自分の代わりの人間が開発にたずさわり、世の中に量産型の魔導杖が出ることは明白だったからだ。

それならば、せめて自分の目の届くところで、よりよいものを作りたかった。例えば行商人が、街から街への街道を歩く時に、万が一魔獣に襲撃されてもなんとか身を守れるように。それによって助かる命があると信じて。ティオが自分なりに答えを出した『自分にできること』だった。

とはいえ、マルセルの言動は、ティオの癇にいちいち障った。やっぱり彼女の中で、次世代魔導杖の開発と、それにたずさわるラインフォルト社の人間は、好かないものだったのだ。そんなティオの気持ちを知ってか知らずか、マルセルがわざとらしく会釈をする。

「それでは、私も仕事に戻ります。そうだ、今度研究室に遊びに来てください。プラトーさんなら、大歓迎ですよ」

その言葉にティオは沈黙で答えた。ティオのジト目に見送られ、マルセルが立ち去る。彼が立ち去った後、ティオはひとつため息をつき、レポート用紙とペンを小脇に抱えて、空のカップを手に持ち立ち上がった。そして、ぽつりとつぶやく。

「…………変な顔、してたんでしょうか」

またも顔を赤らめ、足早にその場を立ち去った。

ネットワーク管理室でダルそうにイスに座っていたヨナは、いきなりすっくと立ち上がった。

「トイレトイレ～っと」

パーカーのポケットに手を突っ込んで、わざと他の研究者に聞こえるようにしながら廊下に出る。管理室からトイレはすぐそこだったが、ヨナはトイレに目もくれず廊下をそのまま先に進んだ。

「マジメにやってられっかよ」

そう言って、ペロリと舌を出す。ヨナはこうして、仕事中にも関わらずプラプラと出歩くクセがついていた。

ヨナが居た頃に比べ、この研究所も拡張がされていて、見知らぬ場所がいくつもある。中には極秘の研究がなされているらしき部屋もあり、この前は警備員にあやうく見つかりかけたりもした。それでもヨナがこの探索をやめない理由はただひとつ、『面白そうだから』である。

今日も気の向くまま、白くて無機質な廊下を歩いていると、ひとつだけドアが開け放たれた研究室を見つけた。スパイにでもなった気分で、ヨナは足音をしのばせ近づく。ドアの横にあるプレートには、

『ラインフォルト社・次世代魔導技術開発チーム・エプスタイン財団研究所分室』

と、長くて仰々しい名前が掲げられていた。

「ラインフォルト社か……」

導力ネットでも、ラインフォルト社の名前は有名だった。帝国軍の多くの武器を納入している大企業。そこの分室がここだ。ヨナも男の子である。何かしらの新兵器の開発をしているのではないか、という好奇心がムクムクと頭をもたげてきていた。

「ま、開けっ放しで不用心なのが悪いってことで」

誰に言うともなくそうつぶやき、身をかがめてスルッと研究室の中に入った。

部屋の中は薄暗くなっており、導力ネットワーク端末の画

面の灯りだけが、部屋をほのかに照らしている。どうやら室内に人はいないらしく、人気はない。そんな中、部屋の中央、やや奥まった場所に、多数のケーブルに繋がれた錫杖のようなものが、透明なケースの中に格納されていた。

そこまで身をかがめながら歩いて行き、ヨナは下からそのケースを見上げた。

「これ……ティオが使ってる、アレだよな？」

アレ、とは魔導杖のことだった。ティオが持つものとシルエットは近しいが、さまざまなディティールが異なる。パーツが多く、いかにも機械という雰囲気を持つティオのそれとは異なり、あまり出っ張りなどはなく、いくつかのブロックに簡単に分けられるような構造になっているようだった。

ここにあるものは、次世代魔導杖、そのテスト機だった。

「……なるほど、それで」

ヨナも情報としてラインフォルト社が研究室をここに持っていること、ティオが魔導杖についてあれこれとレポートをまとめていることは知っていたので、すぐにこれがなんなのか察したようだった。しかし、これはヨナの知的好奇心を満たすようなものではなかったらしい。

「つまんねぇの。もっとこう、導力銃の最新型とかさ、すんげービームみたいなのが出るやつとかならいいのに」

そう言って、部屋を出ようと踵を返したその瞬間。

部屋中に耳をつんざくようなアラート音が響いた。それと同時に、部屋中の導力ネットワークの端末画面が赤と黄色の点滅をはじめる。

「ななっ、なんだ!?」

驚いたヨナは、チカチカと点滅を繰り返す端末画面を覗き込んだ。その表情が、一瞬で険しいものに変わる。

「……なんで、こんなもんがあるんだ？」

このまま放っておくとマズい、と直感で判断する。しかし、自分がここに忍び込んだことがバレてしまうのはもっとマズい。どうすれば……とヨナが逡巡していると。

「——おい、そこに誰かいるのか！」

マズい、とヨナが思った瞬間には、声をかけてきた人物がけたたましい足音とともに部屋に踏み込んできた。

ティオの章（前編）　了



THE LEGEND OF HEROES 碧の軌跡 アオノキセキ

# 情報課通信

碧の軌跡の情報をいち早くお届け!!

## 緊急特報！『軌跡』シリーズ最新作



那由多の軌跡 ナユタノキセキ

### 2012年発売決定!!

毎号『碧の軌跡』の情報をお届けしているこのコーナー。だが今回は、先日発表された特報をピックアップ。なんと、2012年に『軌跡』シリーズの最新作『那由多の軌跡』が発売されることが決定した。続報を待て！

英雄伝説 空の軌跡 ソラノキセキ THE ANIMATION

# 遊撃士協会アニメ支部

アニメ版『空の軌跡』の最新情報を毎号レポート！

## vol.2発売直前イベント&劇場上映が決定!

1月に、vol.2の劇場上映と、イベントの開催が決定した。劇場上映はvol.1の時と同じ劇場で行われる予定になっている。新宿で行われるイベントは監督をはじめとするアニメスタッフほか、日本ファルコムの近藤社長をゲストに迎え、制作秘話が赤裸々に語られるとのことだ。

### ■製品情報

BD初回限定版にはイベントパンフレット縮刷版、特製生フィルムほか特典満載！
BD初回限定版　¥8,190(税込)
BD通常版　¥6,090(税込)
DVD通常版　¥5,040(税込)
(全2巻シリーズ)
**<BD通常版・DVD通常版 共通特典>**
**封入特典：**特製ブックレット（16P）
**映像特典：**ノンクレジットOP＆ED、オーディオコメンタリー
**販売元：**バンダイビジュアル
【公式HP】www.sora-anime.com
【スタッフ】**監督：**橘 正紀　**シリーズ構成・脚本：**上江洲 誠　**キャラクター原案：**日本ファルコム　**キャラクターデザイン・総作画監督：**野崎あつこ　**アニメーション制作：**キネマシトラス
【キャスト】エステル・ブライト：神田朱未　ヨシュア・アストレイ：斎賀みつき　シェラザード・ハーヴェイ：塩山由佳　オリビエ・レンハイム：子安武人　ティータ・ラッセル：今野宏美　クローゼ・リンツ：皆口裕子　レオンハルト：緑川 光　レン：西原久美子　ルシオラ：西川宏美　カンパネルラ：伊藤かな恵　ほか

### ■イベント情報

**vol.2発売直前**
**新春サミット「～スタッフの軌跡を辿る夜～」**
**日時：**2012年1月22日（日）
OPEN 18：00 ／ START 19：00
**会場：**新宿ロフトプラスワン
**チケット料金：**前売り¥2,000（税込）
当日¥2,500（税込）
**発売方法：**ローソンチケット【Lコード：37520】
WEBで購入する（会員登録必要）
http://l-tike.com/guide/index.html
Loppiで購入する　http://l-tike.com/guide/loppi.html
**ゲスト：**橘 正紀（監督）、松家雄一郎(プロデューサー：キネマシトラス)、近藤季洋（日本ファルコム）、小林治(MC)　ほか
**主催：**バンダイビジュアル
**協力：**日本ファルコム



### ■上映情報

**『英雄伝説 空の軌跡 THE ANIMATION』**
**第2話も劇場上映が決定！**
**上映劇場：**
シネマサンシャイン池袋(東京)
立川シネマシティ(東京)
テアトル梅田(大阪)
**上映期間：**
2012年1月28日（土）～2月10日（金）
**入場料金：**¥1,300（税込）

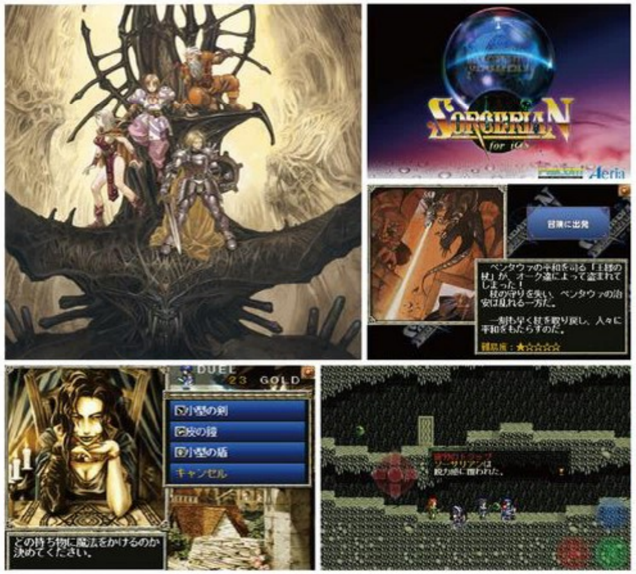
# ▶ファルコムニュース◀

**ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！**

## 『ソーサリアン』、『空の軌跡』がスマートフォンで登場！

ファルコムの人気RPG『ソーサリアン』と『空の軌跡』が、スマートフォン版になって新たに登場することが決定した。『ソーサリアン for iOS』はiOS端末専用ゲームとして販売予定で、すでにティザーサイト（http://p-casual.aeriagames.jp/sorcerian）がオープンしているぞ。サイトではすでに「シナリオコンテスト2012」として、ファンからのシナリオを募集し、今後配信していく企画が進行中だ。スマートフォン版『空の軌跡』は、まだ開発が発表されたばかりなので続報を待つばかりだが、オリジナルのゲーム要素はそのままに、スマホ独自のソーシャル性やオンライン機能が追加された本格RPGとしての制作が予定されているとのことだ。

『ソーサリアン for iOS』




スマートフォン版『空の軌跡』（仮）







## 日本ゲーム大賞W受賞記念 零&碧の軌跡 ゴールドキャンペーン

### カレンダープレゼント残りわずか!

『零の軌跡』『碧の軌跡』が日本ゲーム大賞をW受賞したことを記念して、現在絶賛展開中の『日本ゲーム大賞W受賞記念零＆碧の軌跡ゴールドキャンペーン』。ファルコム通販でのカレンダープレゼントは終了してしまったが、キャンペーン応援店舗によっては残っている場合もあるので、カレンダーがどうしてもゲットしたい人は各店舗を要チェックだ！





# Falcom FanArt Collection

数々の名作で多くのファンを生み出してきた日本ファルコム。FFCでは、そんなファルコムを愛するイラストレーターの方々のイラストとコメントを毎月お届けします！




### おおとり

初めてプレイしたファルコム作品がヴァンテージマスターでした。エンディングの美麗イラストと当時エンディング曲だった「そして新たなる道へ」のために何度もギド・カーンに挑んだ思い出があります。

### 『ヴァンテージマスター』(1997)

個性豊かなマスターを操り、ネイティアル（精霊）を召喚して戦うシミュレーションロールプレイングゲーム。六角形のマップで行われる戦闘で相手マスターのＨＰを０にすることが勝利条件である。



# 月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.11


| | |
|---|---|
| 発行人 | 田中一寿 |
| 発行協力 | 日本ファルコム株式会社 |
| 編集 | 小渕智幸<br>大場恵美子 |
| デザイン・DTP | さとうだいち |
| 表紙ロゴデザイン | 荻窪裕司（ビーニーズ） |
| 発行 | 株式会社フィールドワイ<br>〒101-0062<br>東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F<br>TEL 03-5282-2211（代表）<br>http://www.field-y.co.jp/ |
| 制作・販売協力 | シナノ印刷株式会社 |